

# 平成30年7月豪雨に際する 情報共有会議



平成31年3月  
内閣府（防災担当）  
普及啓発・連携担当

## 岡山県

- 「災害支援ネットワークおかやま」
- ・ 第一回7月9日以後、定期的開催
  - ・ 約160団体120名以上が出席
  - ・ 10月18日から常設化  
「**県域会議**」(月1回)  
「**倉敷会議**」(月2回)

主催：災害支援ネットワークおかやま  
事務局：岡山県社会福祉協議会、岡山NPOセンター

## 広島県

- 「平成30年7月豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議」
- ・ 第一回7月11日以後、定期的開催
  - ・ 約100団体が出席

主催：ひろしまNPOセンター、JVOAD  
事務局：ひろしまNPOセンター

## 愛媛県

- 「えひめ豪雨災害・支援情報・共有会議」
- ・ 第一回7月23日(大洲市)以後、定期的開催(17回)
  - ・ 約30団体が出席

<宇和島圏域>

- 「**牛鬼会議**」
- ・ 第一回8月20日以後定期的開催(20回)
- 中間支援組織設立に向け、「宇和島NPOセンター(仮称)設立準備会・コアメンバー会議」が発足。

<西予圏域>

- 「**西予市連携会議**」
- ・ 第一回8月15日以後定期的開催(20回)
- 新たな災害に備えるためのネットワーク会議「西予つながるネットワーク会議」が発足。

主催：愛媛県社会福祉協議会  
事務局：NPO法人えひめリソースセンター



- 「情報共有会議(社協コア会議)」
- ・ 第一回7月10日～(50回開催)

参加団体：愛媛県、県社会福祉協議会、支援P、えひめリソースセンター

## 小此木防災担当大臣



第二回全国情報共有会議(7月24日)

## 全国情報共有会議

- ・ 第一回7月17日、第二回7月24日、第三回7月31日、第四回8月7日、第五回8月21日、第六回8月28日、第七回9月11日、第八回10月2日、第九回2月25日
- ・ 第二回は、小此木防災担当大臣出席。

(内閣府、厚生労働省、文部科学省、呉市、JVOAD+関係団体、支援P+関係団体 等)

事務局：内閣府、JVOAD、支援P(中央共同募金会)の共同事務局

\*会議開催回数は3月5日(火)時点

## 1. 設立趣旨

平成30年7月豪雨災害に対応するため、各被災地ではNPO・ボランティア等による支援が不可欠である。今次災害の規模に鑑み、様々な専門性・強みをもったNPOや、意欲あるボランティアの方々のご活躍が相当数に必要になる見込みであることから、それらの方々の支援活動を連携のとれたものとするにより、支援の質を高めることができると考えられる。

各府県においては、NPO、社会福祉協議会、行政による「三者連携」の体制が、NPO・ボランティア等の活動を支援する「中間支援組織」とともに形成され、三者出席による「情報共有会議」を通じて、被害状況、被災者のニーズ、支援活動等の情報共有を図ることができるようになっている。

しかしながら、今次災害が多府県に渡る広域なものであることから、府県を超えた調整・連携を要する課題もある。このため、全国レベルでも同様に、連携した支援を実現するよう、被災者のニーズ、支援活動等の情報共有・調整等を行う「平成30年7月豪雨に対応する全国情報共有会議」を開催する。

## 2. 全国情報共有会議において議題となる事項(例)

全国情報共有会議は、主に以下の点を中心に、情報共有や意見交換を行い、問題の解決策を導くよう議論する。

- 一つの府県内では対応できない課題、他府県との調整を要する課題
- 解決のための力(人・モノ・カネ・コト)を、全国規模で募りたい課題
- 府県の境界地域の課題であり、どちらの府県からも支援の手が届きそうにない課題
- 問題の所在を東京発で発信したい課題
- 各県単位で開催される「情報共有会議」の活性化と、会議同士の連携促進

## 1. 解決のための力(人・モノ・カネ・コト)を、全国規模で募りたい課題

- ・ボランティアセンターの運営スタッフ
- ・ボランティア活動に必要な資機材、スポーツドリンク
- ・ボランティアセンターでの熱中症対策 等

## 2. 問題の所在を東京発で発信したい課題

- ・ボランティア偏在
- ・ボランティアへの安全管理、偏在対策
- ・資金による支援
- ・水害対策の周知
- ・支援者に対する支援制度の周知 等

## 3. 府県で共通の課題

- ・宅地内土砂撤去作業についての行政との役割分担
- ・床下作業の標準化
- ・在宅避難者の支援 等

## 4. 情報共有会議の活性化

- ・県別情報共有会議の参加を呼びかけ 等

## 例1: ボランティアの募集状況の表示

全国社会福祉協議会HPにおいて防災ボランティアの募集状況を◎○で表示するようにした。

◎ = 多くのボランティアを求めている

○ = ボランティアを募集している

岡山県・広島県・愛媛県のボランティア募集状況					
府県	市町村	支援形態 「VC」ボランティアセンター	情報掲載 ホームページ、フェイスブック	ボランティア 募集	ボランティアの募集状況・募集範囲など
岡山県	岡山県内の 災害ボランティア情報 <a href="#">岡山県災害ボランティア情報 (Team-Kibi-Dan-Go)</a> (ポータルサイト) 【お知らせ】 岡山県災害ボランティア情報 (Team-Kibi-Dan-Go) では、約2分の動画「安全な水害支援のために～ボランティアのポイントと家屋支援の流れ～」を公開中です。ボランティア活動の前にぜひご覧ください。				
	倉敷市	災害VC	<a href="#">倉敷市災害ボランティアセンター</a> <a href="#">倉敷市社会福祉協議会</a> <a href="#">倉敷市社会福祉協議会facebook</a>	◎	・市外、県外問わず、多くのボランティアを募集しています ・参加受付は、当日受付のほかインターネットによる事前申込も可能です ※10/25に本部が玉島から真備地区に移転しました
広島県	広島県内の 災害ボランティア情報 (ポータルサイト) <a href="#">広島災害ボランティア情報</a> <a href="#">広島災害ボランティア情報facebook</a>				
	三原市	災害VC	<a href="#">三原市社会福祉協議会</a> <a href="#">三原市災害ボランティアセンター</a> <a href="#">facebook</a>	○	・金土のみ活動 ・10月から事前登録制となっています ・次回の活動は、11/16、17の予定です ※11日から「 <a href="#">広島災害ボランティアセンター</a> 」から「 <a href="#">三原市</a>

## 例2: 募金の募集状況

中央共同募金会による赤い羽根共同募金の募集の呼び掛けを、多くの団体が発信できるようにした。

### 寄付で被災地を支援する「ボランティア・NPO活動サポート募金」

寄付を通じて被災地を支援する方法もあります。赤い羽根の中央共同募金会では、被災者の支援活動を行うボランティア・NPO団体の活動費用を応援する「ボランティア・NPO活動サポート募金」を受け付けています。ご協力をお願いします。

#### 【平成30年7月豪雨災害ボランティア・NPO活動サポート募金（ボラサポ・豪雨災害）】

募集期間：平成30年7月10日（火）～9月28日（金）

振込先

みずほ銀行 虎ノ門支店 普通預金2856717 <口座名義> (福) 中央共同募金会  
三井住友銀行 東京公務部 普通預金177631 <口座名義> (福) 中央共同募金会

クレジットカードでの募金も受け付けています。

<https://www.akaihane.or.jp/>



※詳細は、中央共同募金会ホームページ <https://www.akaihane.or.jp/> をご確認ください。

中央共同募金会HP

## 例3: ボランティアの募集にメッセージを発信

<作成者>

- ・災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)
- ・NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
- ・内閣府(防災)普及啓発・連携担当

第1弾: 7月13日

第2弾: 7月27日

第3弾: 9月20日

平成30年7月13日

### 被災地でのボランティア活動を希望されている方へ

大震災から平成30年7月豪雨まで、昨今の災害でくわられた方々からお情けを申し上げます。また、被害に遭われた方々からのお返事を申し上げます。

日本を中心とした全国で被災地支援活動が盛んに行われており、7月豪雨では、多くの方が被災地、被災者のために「何かしたい」「何かできたい」と考えていると思います。中にはボランティア活動の経験がないけど、やってみようかなと思う方もいると思います。被災地でのボランティア活動を希望されている方は、本紙をお読みいただき、より多くの方々に、よりよい支援活動にご参加いただけることを願っています。

事前によく情報を収集しましょう。

- 被災地の状況を十分に確かめる  
いままだ十分な地域や、道路が寸断されたり規制がかかっている地域があります。現状を知らずにいくと、緊急避難や災害復旧作業の妨げになることもあります。
- 災害ボランティアセンターの開設情報を知る  
被災した自治体では、ボランティアの受け入れ体制を整えながら、速く「災害ボランティアセンター」を開設しています。開設は、自治体のホームページ、災害ボランティアセンターが実施する案内よく集めてください。ボランティア募集を拡大した自治体に追加した募集に関する案内や、連絡先などを行っている場合があります。

【参考】全社協 被災地支援・災害ボランティア情報 <https://www.saigaivc.com/>

事前準備が大切です

- 1) 安全管理のためには準備を徹底すること  
現地での活動は、ボランティアの受け入れ体制を整えながら、速く「災害ボランティアセンター」を開設しています。開設は、自治体のホームページ、災害ボランティアセンターが実施する案内よく集めてください。ボランティア募集を拡大した自治体に追加した募集に関する案内や、連絡先などを行っている場合があります。

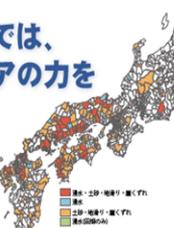


- 2) 災害復旧、移動手段を事前に確認すること  
ご自身で、道路状況、移動手段を事前に確認してください。被災地から少し離れたところでも、道路状況を確認することもお考えください。
- 3) いまだに被災している地域でボランティア活動参加に加入すること  
ボランティア活動参加は、農産物の社会福祉協議会で行われます。現地に行けず前日までボランティア活動参加に加入し、加入した証明(加入証など)を必ず持参して現地に行くようにしてください。また、いまだに被災している地域で加入すること、自宅と活動場所までの往復交通も確保されます。その一環が、被災地の復興の促進にもつながります。なお、災害ボランティア活動は、天災地災(地震、津波など)による被災地での活動に限ります。また、すでに被災地ボランティア活動に参加されている場合は、重複での参加は不要です。保護料は被災地内により異なります。3500~5100円程度です。

【参考】「ボランティア活動参加」パンフレット: 全国社会福祉協議会発行  
[https://www.fukushikyo.or.jp/attach/attach\\_data/2018/07/2018\\_volunteer\\_activity\\_pamphlet.pdf](https://www.fukushikyo.or.jp/attach/attach_data/2018/07/2018_volunteer_activity_pamphlet.pdf)

※ 東関東、西関東、東北、北海道など一部加入受付が開始している場合があります。

### 西日本豪雨の被災地では、まだまだボランティアの力を必要としています。



平成30年7月豪雨による被害状況(7/17)

必要な支援は力仕事ではありません

平成30年7月豪雨の被災地では多くの人がボランティアとして尽力されています。しかしながら被災地は広範囲にわたり、より多くのボランティアの力を必要とされている地域も多くあります。

現在のボランティアの活動は、主に個人宅の復旧や家族のケアなどが中心ですが、避難所や施設などで生活のサポート、子どもたちの遊び相手、コミュニティ活動のサポートなど、多岐にわたる支援も求められてきています。

長期的な支援が必要で

こうした活動を継続していくために、企業、労働組合、大学などの単位で、継続的・長期的に活動していただける方を歓迎します。企業などの社会福祉活動、社員のみなさまのボランティア活動などを活用した活動、大学のサークルやゼミなどの夏休みを活用した活動など、組織的な参加をご検討ください。互いの支援活動にご協力をお願いします。

支援者側にも十分な休息が必要です

災害発生から3週間以上経ちました。この間、ボランティアセンターの開設、スタッフやボランティアなど、支援活動にあたり方々の中には、十分な休息がとれないまままで活動している方がいます。支援者の方々も、休息をとってください。

以下サイトから、ボランティア募集を継続している災害ボランティアセンターがご覧いただけます。みなさまの近くの見舞地で、支援を必要としている場合もあります。

全社協 被災地支援・災害ボランティア情報  
<https://www.saigaivc.com/>

### 西日本豪雨の被災地では、引き続き、ボランティアの力を必要としています。

改めて、全国からの応援をお願いします。

平成30年7月豪雨の被災地では、8月末で累計20万人以上の方がボランティアとして尽力されています。しかしながら、豪雨の爪痕は想像以上に深く、改めて、全国からのボランティア、資金等の応援をお願いします。

特に、岡山県倉敷市、広島県呉市・坂町の各災害ボランティアセンターでは、引き続き全国からの混出し等を行うボランティアを募集しています。個人の参加はもとより、ボランティアバス等での団体での参加も歓迎しています。被災者にとっては自らの土砂出しが生活再建のスタートとなりますが、今もお最初の一步で苦しんでいる方がおられます。一人でも多くの方のご参加をお願いします。



以下のサイトから、ボランティア募集を継続している災害ボランティアセンターがご覧いただけます。また、西日本豪雨以外の被災地でも、ボランティアを募集している災害ボランティアセンターがあります。

全社協 被災地支援・災害ボランティア情報  
<https://www.saigaivc.com/>

# 各県・市による情報共有会議の振り返り

- 平成30年7月豪雨の際に開催された岡山県、広島県、愛媛県の情報共有会議について、各県・市の担当者に対し、内閣府から聞き取り調査を実施。（調査時期：平成31年3月）

	情報共有会議への出席部局	会議での役割	会議の運営について	ボランティアとの連携について
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民生活部</li> <li>保健福祉部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供</li> <li>質問対応</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会議等を通じて支援者同士がつながり、必要な支援について連携・調整できる場となった。</li> <li>外部支援者には、支援の入り口として、この会議に必ず参加して欲しい。</li> <li>民間の良さ（迅速性、専門性、きめ細かさ、多様性等）を活かせるよう、民間主導での会議運営ができた。</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政の手が届きにくい部分に対する支援など、行政とボランティア・NPO等民間とが相互に補完し合うことで、重層的な支援を提供することができる。</li> <li>民間ならではの良さを活かしていただいた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三者連携の重要性を、県内市町村に、引き続き問うことが必要である。</li> <li>平時から、様々な団体と協力関係を築くことが必要である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民協働局</li> </ul>			
	倉敷市	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画財政局</li> <li>市民局</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供</li> <li>質問対応</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国から集まったボランティア団体の活動内容がよく分かり、会議体に参加していることが、連携する上での判断材料となった。</li> <li>行政の情報を適時ボランティアに提供できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会議体の組織と行政担当課との関係をより明確にし、組織的に運営すべきである。</li> </ul>
広島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康福祉局</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供</li> <li>情報把握</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有会議を早期に立ち上げ、各団体が連携し情報交換をする場ができた。</li> <li>外部支援団体間からの情報が見える化できたことで、情報共有・活動調整が速くなり、個別調整の負担が減った。</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な被災を受けた地域や小規模な役場・社協に対しては、民間ボランティアの支援が効果的であった。</li> <li>民地内の土砂撤去に関しては、重機等の専門ボランティアとの連携が有効であった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重機ボランティア、避難所運営等の専門性を有するボランティア団体の配置について、県境を越えた広域での調整機能が必要である。</li> </ul>
	広島市	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理室</li> <li>市民局</li> </ul>		

# 各県・市による情報共有会議の振り返り

	情報共有会議への出席部局	会議での役割	会議の運営について	ボランティアとの連携について
愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健福祉部</li> <li>県民環境部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供</li> <li>質問対応</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政、社協、NPO等が一堂に会し、効果的な被災者支援について連携・調整できる場となった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平時においても活動を継続する必要がある。</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政、社協、ボランティアが、過去の経験とノウハウを活かし、効果的な支援ができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>速やかな被災者支援に向けた、平時からの三者連携の構築が必要である。</li> <li>会議で得た課題等について、庁内部局横断的に共有・検討する場も必要である。</li> </ul>
宇和島市	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健福祉部</li> <li>市長公室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な団体と連携・調整することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容に応じた行政職員の参加が必要である。</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政の手が届きにくい部分に対する支援など、行政とボランティア・NPO等民間とが相互に補完し合うことで、重層的な支援を提供することができる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政側の受入体制（窓口）が整っておらず、円滑な連携を図ることができなかった。</li> </ul>
大洲市	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民福祉部</li> <li>総合政策部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に、関係者同士で情報共有等できる場となった。</li> </ul>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平時からのボランティアとの連携が必要である。</li> </ul>
西予市	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務企画部</li> <li>生活福祉部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供</li> </ul>	<p>【評価すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係者同士で支援のための連携・調整を行える場となった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市側とNPO団体の繋ぎが出来る人材が必要である。</li> <li>福祉のみならず、商工農林水産、建設関係まで、多岐にわたり判断出来る行政職員の参加が必要である。</li> </ul>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政側のボランティア受け入れ体制が整っていなかった。</li> </ul>